

原発県民投票静岡を振り返って

浜岡原発は知らない・命を守る菊川市民の会
事務局 落合明夫

菊川市では当時、浜岡原発は知らない・命を守る菊川市民の会（以下菊川市民の会と表記）の結成総会を控え、大変多忙な時期ではあったが、5月4日に受任者予備会議を開き、県民投票署名も緊急の課題として、同時並行で5月13日から署名が始まりました。

5月17日、菊川市民の会の結成総会を開催し、県民投票に取り組むことを方針として確認しました。5月28日には、請求代表者の鈴木望氏を招いて受任者説明会を行い、そこに一人でも多くの人を集めることから具体的な活動が始まり、7月11日までの署名活動がスタートしました。

しかし、初めてのことで最初はどのようにしてよいのか分からず、気持ちばかりが焦っていましたが、鈴木望さんから「スーパー バロー店で協力がいただける」との連絡があり、早速役員3名でバロー菊川店に「店頭署名の協力をお願い」に行き、来店者の邪魔にならないことを条件に、許可をいただくことが出来ました。

そして開始されたスーパー店頭署名、会員を中心に7~8名の受任者の皆さんの協力を得て、店頭に机といすを置いて、県民署名ののぼり旗を掲げて、声をあげて県民署名への協力を訴えました。呼びかけて署名者を机に誘導する係と、机の前に座って署名者に署名のやり方を説明する係に分かれて署名を呼びかけ、机には署名を待つ人が列を作って待つほどの盛況で、180筆/2時間もの署名を取ることが出来ました。

初めてのことで戸惑う我々にとって、これは大きな財産となり、その後の署名活動の大きな力となりました。

これに意を得た我々は、菊川市内にある静鉄ストア、ラックなどの店長に店頭署名のお願いに行き、土曜日ごとの署名イベントを企画して、定期的にスーパー署名に取り組むとともに、「家族だけの署名でも良いので受任者になって…」という形で、受任者をいかに増やすかを基本に、個別の署名にも積極的に取り組みました。

結局、スーパー店頭署名は合計15回（平均2時間）で延べ参加人員90名、署名数約1,500筆と全体の1/3をスーパー店頭署名で集め、加えて県民投票の宣伝、話題作りができたと思います。

結果的に菊川市では全体で4,463筆（有権者の6.06%）の署名を集め、全県の178,240筆（同2.90%）の平均の倍以上の署名を獲得し、県下で6番目に多く、周辺4市に比べても2~3倍多く署名を集めることが出来ました。

結果的に県議会で否決され、県民投票の実現は出来ませんでした。この運動で何よりも大きな成果は、この署名運動に参加した会員の皆さんが、実に生き生きと市民に語り掛け、署名を訴えかけることで、市民との共同行動の喜びと自信を得たことではないかと思っています。そしてこの自信が今日の菊川市民の会の運動に確実に引き継がれ、財産になっていると感じています。